

専大校友を訪ねて

福島県「いわき自然史研究会代表」アマチュア自然科学研究家 鈴木千里さん
(昭48商)



— 白亜紀のアリ化石発見 国内最古 —

いわき市四倉の自宅から約8キロ。8500万年前の中生代後期・白亜紀の地層から採取した琥珀2個に、日本最古のアリの化石が含まれていることが分かった。白亜紀のアリのこれまで北米大陸とロシアから数例発見されたのみで、国内では初という大発見。一斉に全国紙に報道された。発見場所は、研究のホームグラウンド一角。「何千万年もの間、封印されたものが人の目にふれる。その感動は言葉には表せません」。化石への尽きない魅力を誇る。

四倉近郊の山々を歩き、矢じり、土器などを見つけることが何よりも好きな好奇心旺盛な少年だった。採取したものを四倉史学会の化石研究家、小桧山元さん(故人)のもとに持ち込んで教えを請い、ますますとりに。「理系に進みたかった」が、家業の製麺業を継ぐことを決意。県立磐城高から専大商学部会計学科に進学。高校の先生が「会計学科があるのは専大」と勧めたためだ。学生時代の思い出も「発掘」に尽きる。長期休暇中、全国の地層を回り、収集。大学や研究所で知識を深め、化石研究に磨きをかけた。

発掘歴40年以上、発掘点数は約3000。過去にも本州最大のアンモナイト(83年)や国内最古の8500万年前の昆虫入り琥珀(85年)など、ビックな発掘・発見がある。昨年はTV番組の企画でアイドルグループ「TOKIO」のメンバーとクビナガリュウなどの化石180点を発掘し、話題になった。講演や後進の指導にも忙しい。

本業でも古代米入り「クビナガリュウ麺」を編み出し、ヒットさせた。店頭で収集展示コーナーを設け、目を引いている。「拾った貝や石炭の破片を持ってきて、鑑定にくる子があります。『すごいでしょう』って」。少年時代、故小桧山先生がしてくれたように、丁寧に化石の基礎を教え誉めてあげるそうだ。「価値がなくても、子どもにとっては宝物なんです」。

【ニュース専修11月号7面】